



株式会社 **大気社**

この写真は大気社の海外拠点があるアメリカの世界遺産、
フランク・ロイド・ライトの20世紀建築作品群の一つ、落水荘
(カウフマン邸) です。

2022年3月期(2021年度)

第2四半期決算説明会資料

2021年11月16日

1. 上期の市場環境と業績
2. 通期業績予想

1. 上期の市場環境と業績

1 上期の市場環境と業績

上期の市場環境

国内市場

首都圏におけるオフィスビルの建設需要が好調であり、医薬品メーカーや電子部品メーカーなどによる投資も堅調に推移した。

海外市場

新型コロナウイルス感染症の影響による不透明感が依然続いており、各メーカーによる設備投資は慎重な動きが続いた。

1 上期の市場環境と業績

上期の連結業績

単位：億円

	予想	2021.9 実績	差異
受注工事高	940	879	-60
完成工事高	920	924	4
経常利益	27	35	8
(同率)	2.9%	3.9%	0.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	17	16	-0
(同率)	1.8%	1.8%	-0.0%

- 受注工事高は、環境システム・塗装システム両事業の海外において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による設備投資の調整局面が続いたことで、全社で期初予想を下回った。
- 経常利益は、塗装システム事業での損失分を環境システム事業が補う形で、期初予想を上回った。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、海外子会社の採算性悪化や法人税等の負担が増加したため、期初予想をわずかに下回った。

2. 通期業績予想

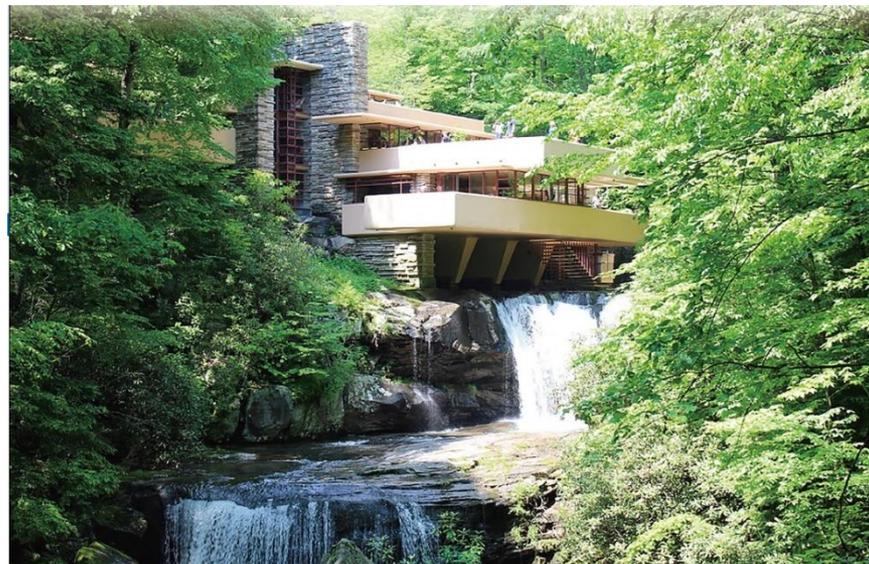
2 通期業績予想

通期の連結業績予想

単位：億円

	上期実績	下期予想	通期 (新予想)	通期 (期初予想)	差異
受注工事高	879	1,420	2,300	2,440	-140
完成工事高	924	1,125	2,050	2,180	-130
経常利益	35	64	100	135	-34
(同率)	3.9%	5.7%	4.9%	6.2%	-1.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	16	43	60	84	-24
(同率)	1.8%	3.8%	2.9%	3.9%	-0.9%

- 上期業績および最近の事業環境を踏まえ、通期業績予想を修正。
- 全ての項目で期初予想を下回る見通し。
- 海外での新型コロナウイルス感染症拡大の影響と、海外子会社の採算悪化が主要因。



1. 2022年3月期（2021年度） 第2四半期決算説明

- | | |
|------------------------|--------------------|
| ① 2022年3月期第2四半期決算ハイライト | ④ 主な受注工事・完成工事・繰越工事 |
| ② 環境システム事業の業績 | ⑤ 2022年3月期の業績予想 |
| ③ 塗装システム事業の業績 | |

2. 中期経営計画（2019年度～21年度）の各戦略における取り組み

3. 株主還元

1. 業績数値等は原則、連結ベースです。個別ベースの場合のみ、各ページのタイトルに（個別）と記載しています。
2. 業績数値等は原則、外部顧客に対する取引金額となっており、セグメント別の営業利益・経常利益についてのみ、内部取引高を含む数値となっております。業績予想数値は、発表日現在において、入手可能な情報に基づき推計した見込みです。
3. 経済動向、業界における激しい競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度の改正、その他多様なリスクや不確実性を含んでいます。そのため、実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

1. 2022年3月期（2021年度） 第2四半期決算説明

1

2022年3月期第2四半期決算ハイライト

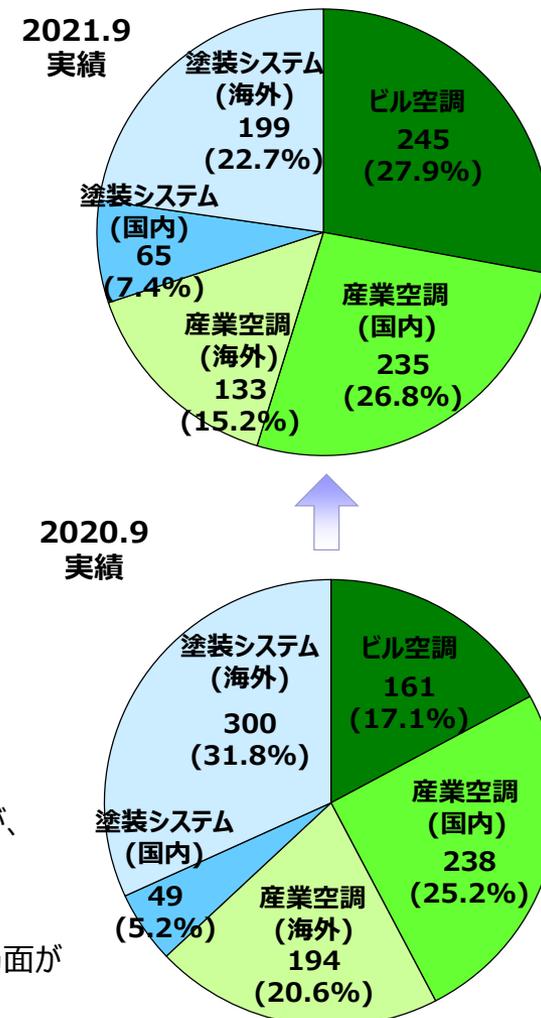
1-①.事業別受注工事高（前年同期比）

単位：億円

	2020.9	2021.9	増減
受注工事高	945	879	-65
（うち国内）	（449）	（546）	（96）
（うち海外）	（495）	（333）	（-162）
環境システム事業	594	614	19
ビル空調	161	245	83
産業空調	433	368	-64
（うち国内）	（238）	（235）	（-3）
（うち海外）	（194）	（133）	（-61）
塗装システム事業	350	264	-85
（うち国内）	（49）	（65）	（15）
（うち海外）	（300）	（199）	（-101）

- ・ビル空調分野は、前年同期は新型コロナウイルス感染症拡大による投資減少の影響が大きく出たが、今期は首都圏での大規模再開発案件などにより増加。
- ・産業空調分野および塗装システム事業は、海外で前年同期に大型案件の受注があったことによる反動減に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による景気悪化に伴い、設備投資の調整局面が続く、いずれも減少。

事業別構成



1

2022年3月期第2四半期決算ハイライト

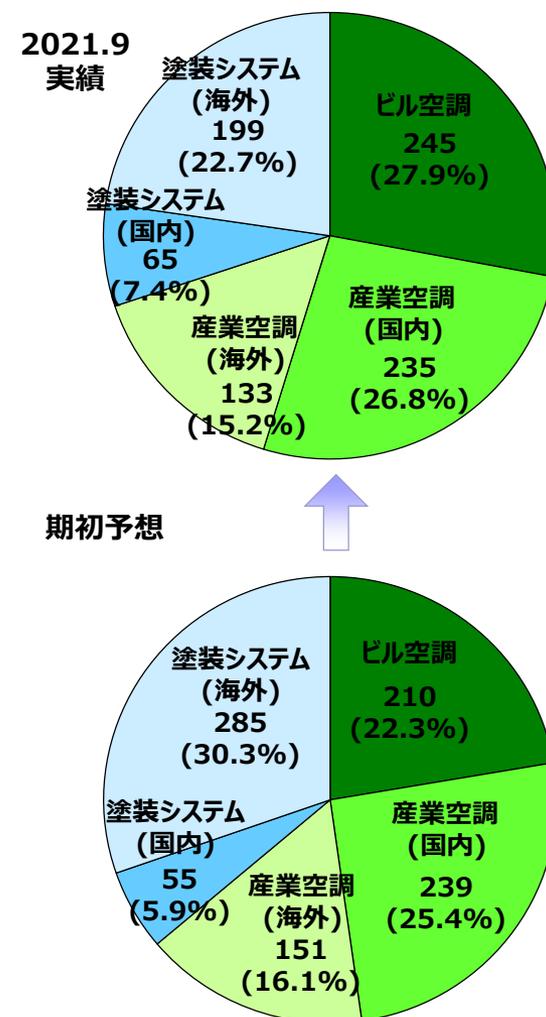
1-②. 事業別受注工事高（予想比）

単位：億円

	予想	2021.9実績	差異
受注工事高	940	879	-60
（うち国内）	（504）	（546）	（42）
（うち海外）	（436）	（333）	（-102）
環境システム事業	600	614	14
ビル空調	210	245	35
産業空調	390	368	-21
（うち国内）	（239）	（235）	（-3）
（うち海外）	（151）	（133）	（-17）
塗装システム事業	340	264	-75
（うち国内）	（55）	（65）	（10）
（うち海外）	（285）	（199）	（-85）

- ・ビル空調分野は、首都圏を中心とした大規模再開発案件の需要を確実に取り込み、予想を上回った。
- ・産業空調分野および塗装システム事業は、海外において、期初には新型コロナウイルスの収束も見込み、期ズレの案件等の取り込みを一定程度織り込んだが、感染症拡大の影響が想定以上に長引き、設備投資の調整局面が続いた。

事業別構成



1

2022年3月期第2四半期決算ハイライト

2-①. 事業別完成工事高（前年同期比）

単位：億円

	2020.9	2021.9	増減
完成工事高	815	924	108
（うち国内）	（474）	（481）	（6）
（うち海外）	（341）	（442）	（101）
環境システム事業	573	587	13
ビル空調	175	198	23
産業空調	397	388	-9
（うち国内）	（258）	（207）	（-51）
（うち海外）	（139）	（180）	（41）
塗装システム事業	242	337	94
（うち国内）	（40）	（75）	（34）
（うち海外）	（201）	（261）	（59）

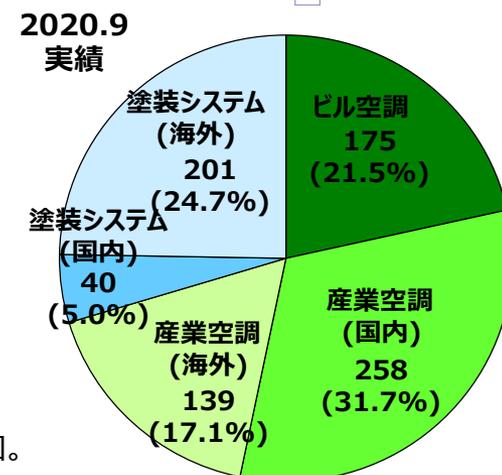
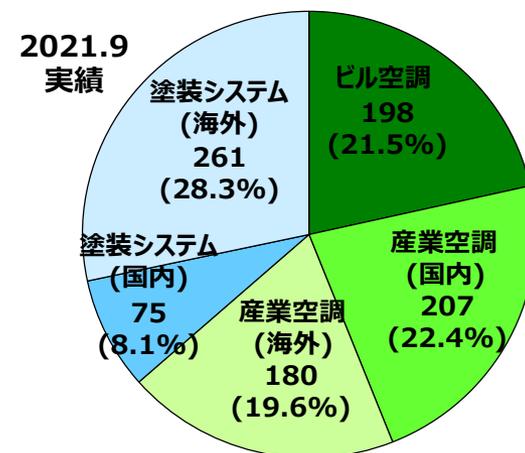
（環境システム事業）

- ・ビル空調分野は、期初の繰越工事高の増加により前期比で増加。
- ・産業空調分野は、海外で増加したものの、国内は減少。
（国内において、前年同期は複数の大型案件の大きな進捗があったことによる反動減）

（塗装システム事業）

- ・前期に比べ期初の繰越工事高が減少したものの、完工を迎えるタイミングの影響により、前期比で増加。

事業別構成



1 2022年3月期第2四半期決算ハイライト

2-②.事業別完成工事高（予想比）

単位：億円

	予想	2021.9 実績	差異
完成工事高	920	924	4
（うち国内）	（450）	（481）	（31）
（うち海外）	（470）	（442）	（-27）
環境システム事業	600	587	-12
ビル空調	180	198	18
産業空調	420	388	-31
（うち国内）	（214）	（207）	（-6）
（うち海外）	（206）	（180）	（-25）
塗装システム事業	320	337	17
（うち国内）	（56）	（75）	（19）
（うち海外）	（264）	（261）	（-2）

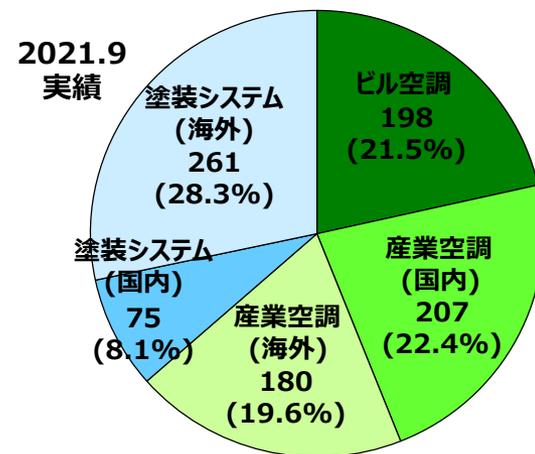
（環境システム事業）

- ・ビル空調分野は、首都圏の再開発案件の出来高が伸びたことで、予想を上回った。
- ・産業空調分野は、海外で新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大型物件の工期遅れが発生し予想を下回った。

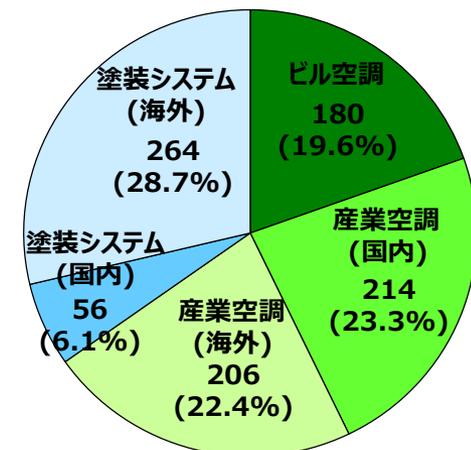
（塗装システム事業）

- ・国内で期初想定を上回る工事の進捗があり、予想を上回った。

事業別構成



期初予想



1
2022年3月期第2四半期決算ハイライト
3-①. 事業別利益（前年同期比）

単位：億円

	2020.9	2021.9	増減
営業利益	31	27	-4
（同率）	3.9%	3.0%	-0.9%
環境システム事業	42	30	-11
（同率）	7.4%	5.3%	-2.1%
塗装システム事業	-10	-5	5
（同率）	-4.5%	-1.6%	2.9%
経常利益	37	35	-1
（同率）	4.6%	3.9%	-0.7%
環境システム事業	44	33	-11
（同率）	7.8%	5.7%	-2.1%
塗装システム事業	-10	-4	6
（同率）	-4.4%	-1.2%	3.1%

（環境システム事業）

- ・前期に比べ、採算性の高い物件の比率が低下したこと、インドのNicomac社（昨年取得）ののれん償却費等の販管費増により、減益。

（塗装システム事業）

- （・前年同期は競争激化に伴い、採算性の高い物件の比率が低下したことにより、経常赤字であった。）
- ・前期と比べ、今期は完成工事高が増加したことで赤字幅は減少しているが、Geico社の欧州におけるプロジェクトにおいて、採算が悪化したことにより経常赤字となった。

1 2022年3月期第2四半期決算ハイライト

3-②. 事業別利益（予想比）

単位：億円

	予想	2021.9 実績	差異
営業利益	23	27	4
（同率）	2.5%	3.0%	0.5%
環境システム事業	24	30	6
（同率）	4.0%	5.3%	1.3%
塗装システム事業	1	-5	-6
（同率）	0.3%	-1.6%	-1.9%
経常利益	27	35	8
（同率）	2.9%	3.9%	0.9%
環境システム事業	25	33	8
（同率）	4.2%	5.7%	1.6%
塗装システム事業	1	-4	-5
（同率）	0.3%	-1.2%	-1.5%

（環境システム事業）

・期初繰越物件のうち上期竣工物件において、期初想定した以上の利益改善が進み、予想を上回った。

（塗装システム事業）

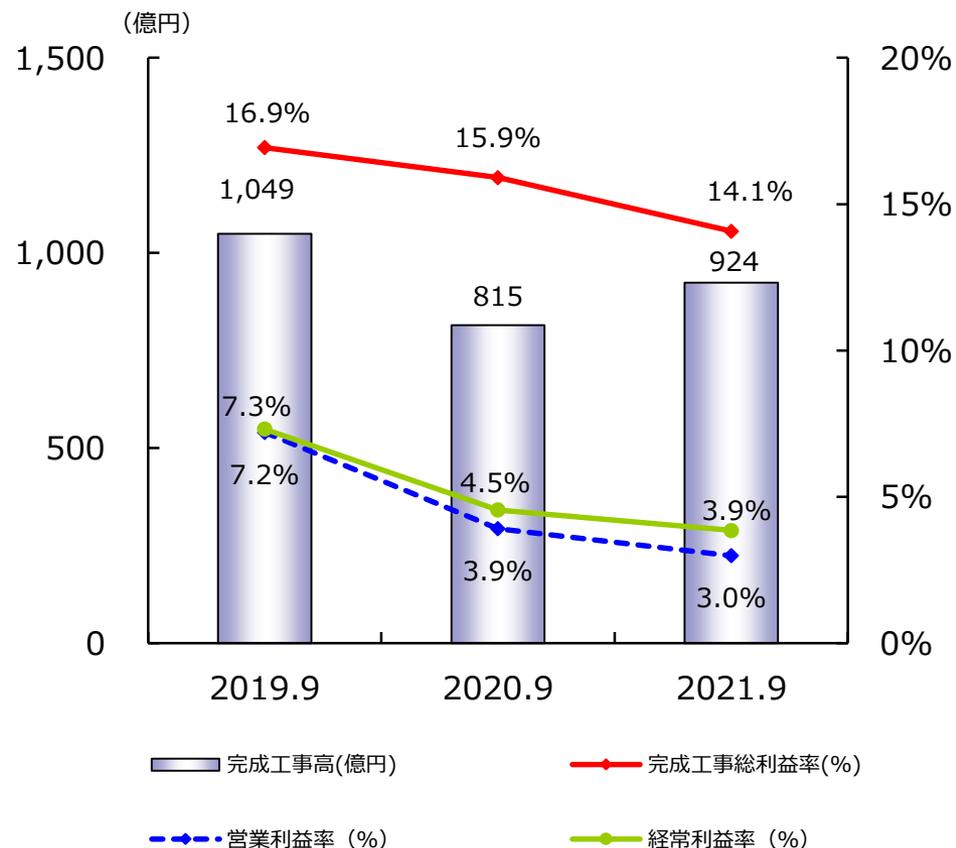
・国内で期初想定以上の出来高を確保し、想定以上の利益を確保できたものの、Geico社の欧州におけるプロジェクトにおいて採算が悪化し、その損失分を補うことができず、結果として経常赤字となった。

1 2022年3月期第2四半期決算ハイライト

4. 損益計算書

単位：億円

	2019.9	2020.9	2021.9
完成工事高	1,049	815	924
完成工事総利益	177	129	130
(同率)	16.9%	15.9%	14.1%
販管費	102	97	102
(同率)	9.7%	12.0%	11.1%
営業利益	75	31	27
(同率)	7.2%	3.9%	3.0%
経常利益	76	37	35
(同率)	7.3%	4.5%	3.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	53	30	16
(同率)	5.1%	3.8%	1.8%



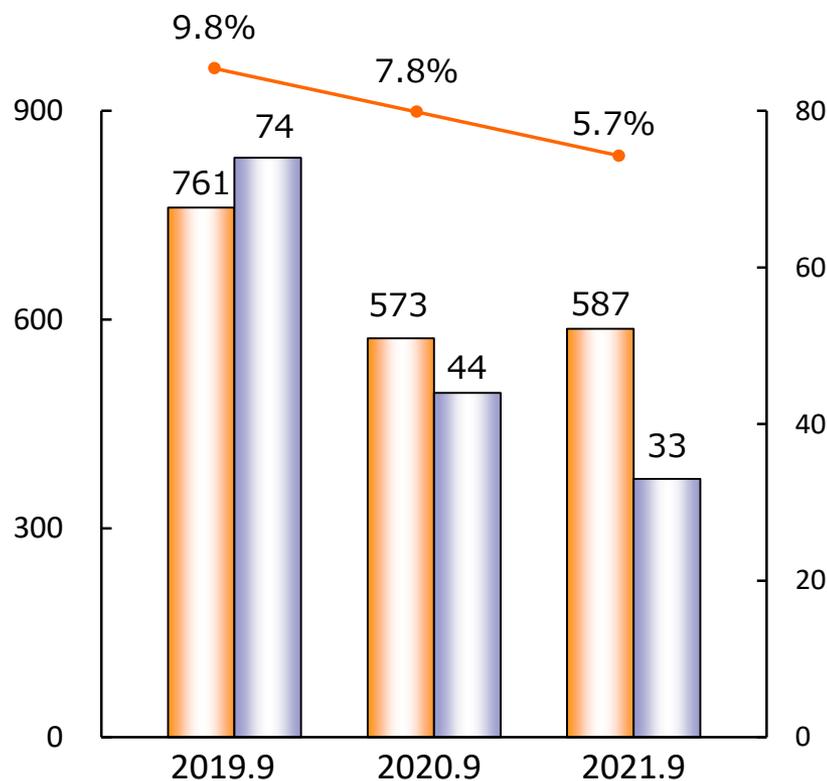
1

2022年3月期第2四半期決算ハイライト

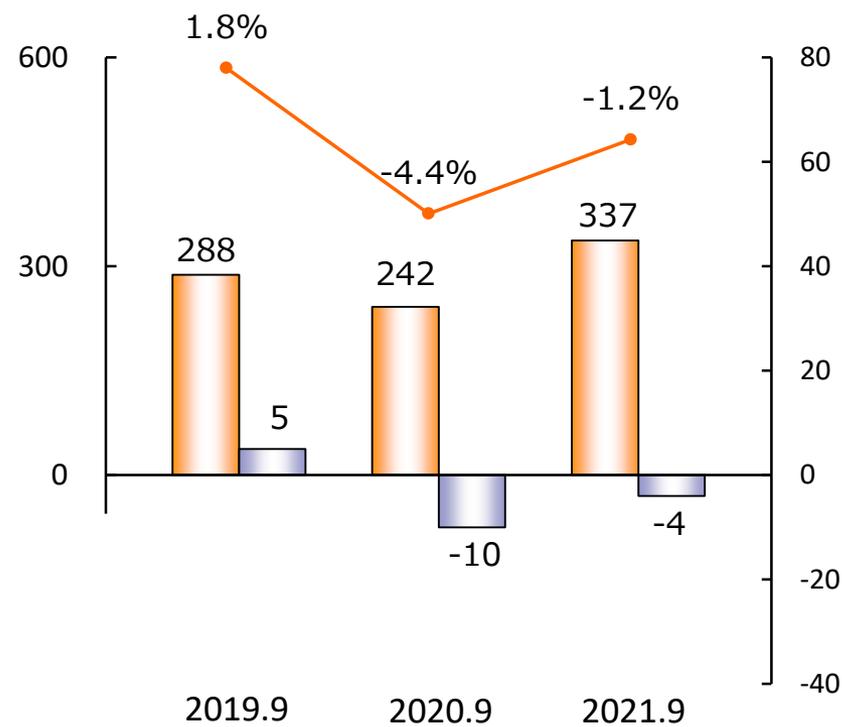
5. 報告セグメントごとの完成工事高及び経常利益

単位：億円

環境システム事業



塗装システム事業



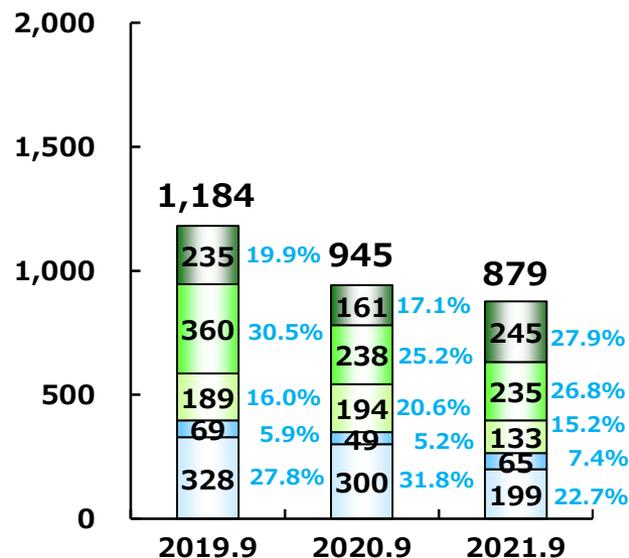
1

2022年3月期第2四半期決算ハイライト

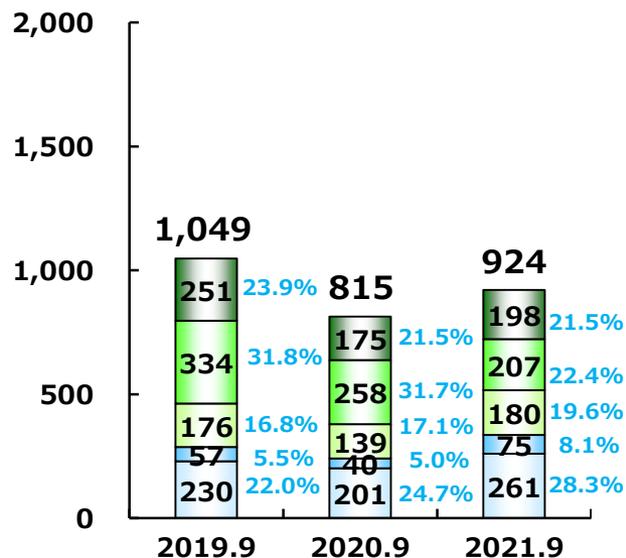
6. 受注工事高 / 完成工事高 / 繰越工事高

単位：億円

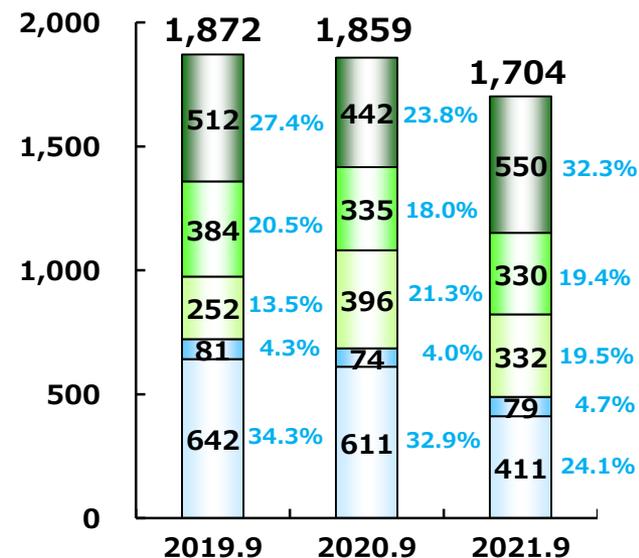
受注工事高



完成工事高



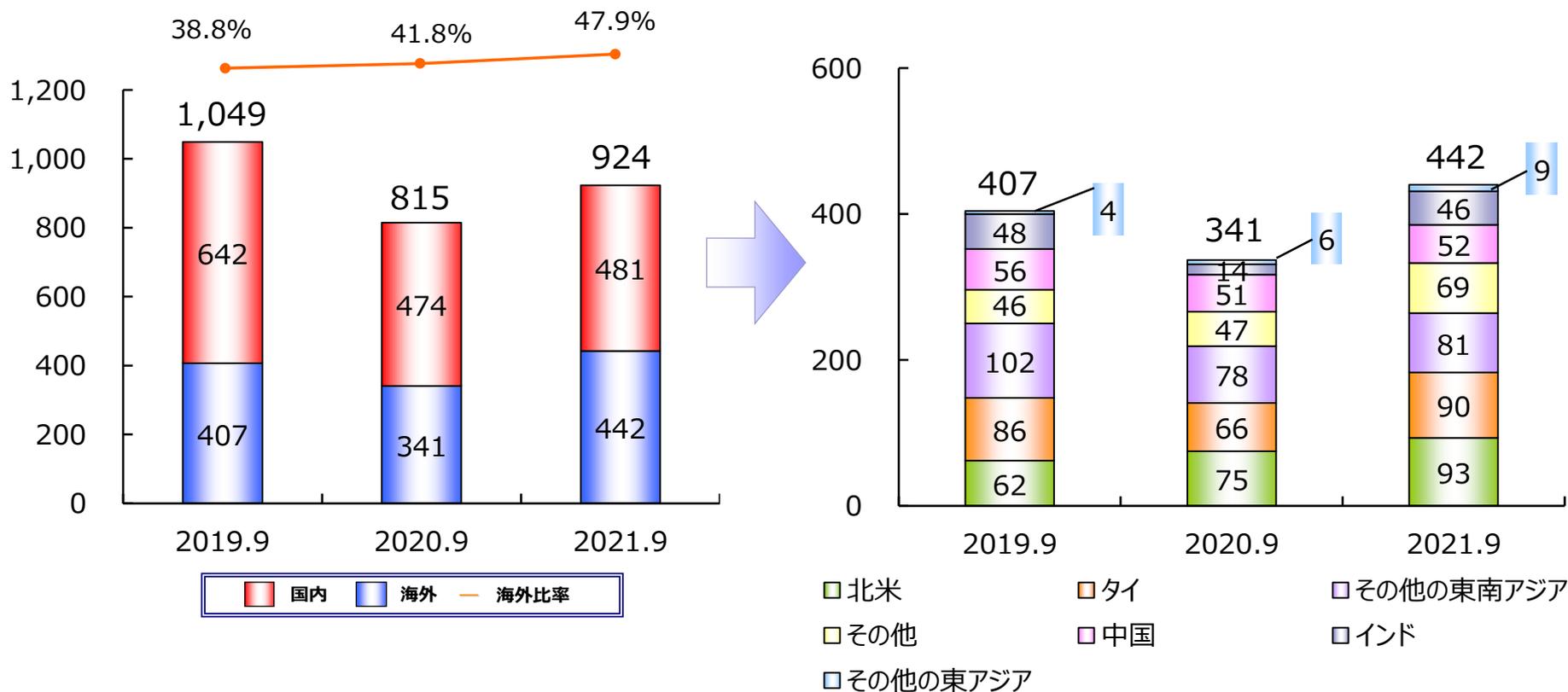
繰越工事高



1 2022年3月期第2四半期決算ハイライト

7. 海外完成工事高の推移(施工地別)

単位：億円



備考：当セグメントデータは、外部顧客への売上高のみの数値です。

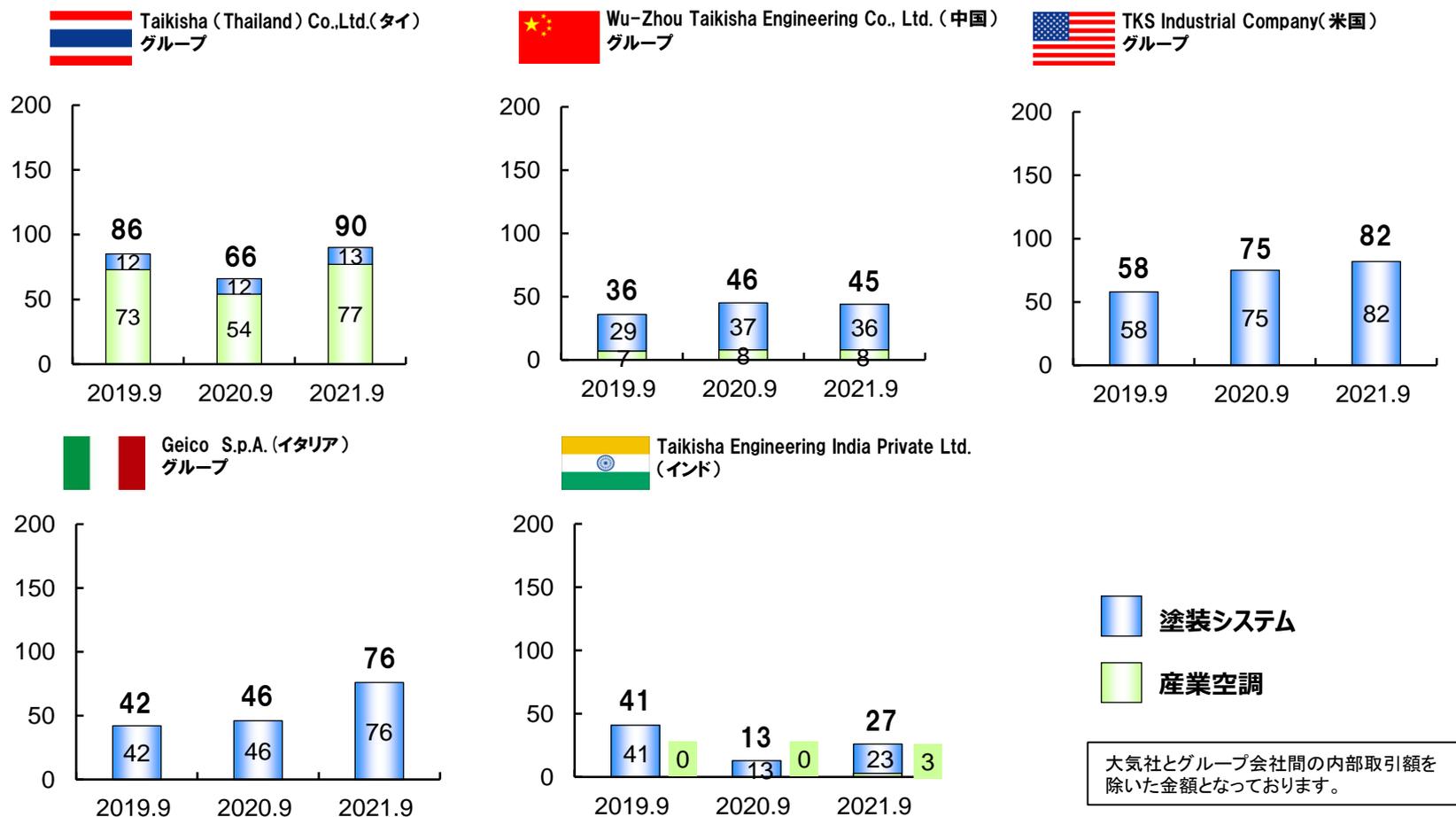
- 主な国または地域
 - ・ 東南アジア - - シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、他
 - ・ 東アジア - - - 台湾、韓国
 - ・ 北米 - - アメリカ、カナダ、メキシコ
 - ・ その他地域 - - 欧州、南米、他

1

2022年3月期第2四半期決算ハイライト

8. 海外主要5社の完成工事高の推移

単位：億円



1 2022年3月期第2四半期決算ハイライト

9. 貸借対照表

単位：億円

科目	2021.3	2021.9	増減
流動資産	1,653	1,581	-72
現金預金	520	465	-54
受取手形・完成工事未収入金	1,014	919	-94
有価証券	20	20	0
未成工事支出金及び 材料貯蔵品	24	24	-0
その他	80	158	77
貸倒引当金	-6	-6	0
固定資産	634	639	4
有形固定資産	101	107	6
のれん	40	39	-1
その他無形固定資産	43	41	-2
投資有価証券	326	328	2
繰延税金資産	10	3	-6
その他	112	118	6
貸倒引当金	-0	-0	-0
資産合計	2,288	2,220	-67

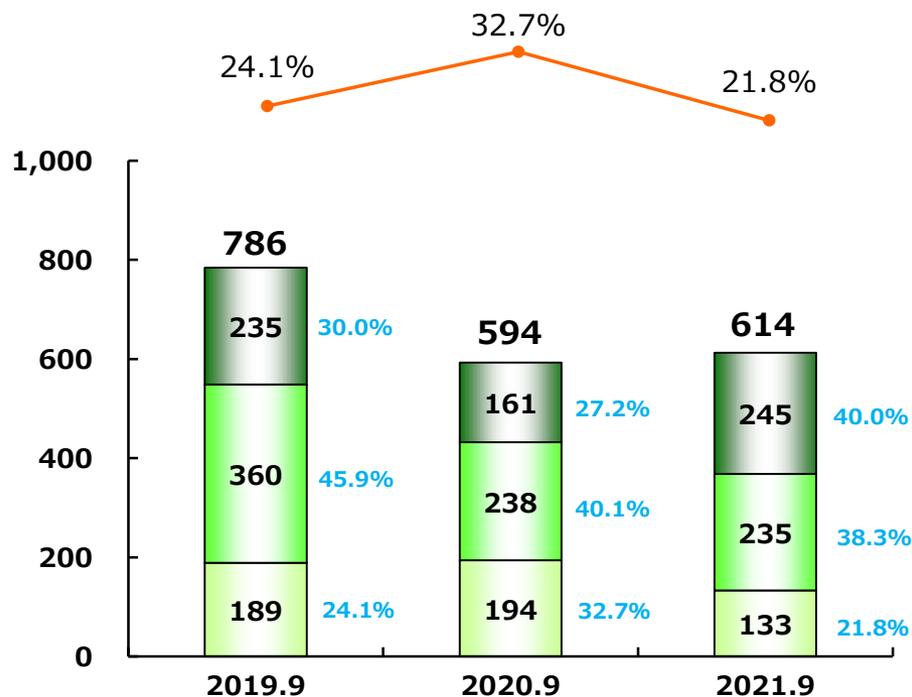
科目	2021.3	2021.9	増減
流動負債	869	766	-103
支払手形・工事未払金等	520	405	-115
未成工事受入金	142	112	-29
工事損失引当金	4	3	-0
その他	202	245	43
固定負債	156	180	24
負債合計	1,025	946	-79
純資産	1,263	1,274	11
資本金	64	64	0
資本剰余金	50	50	0
利益剰余金	957	953	-3
自己株式	-25	-25	0
その他有価証券評価差額金	142	144	1
繰延ヘッジ損益	-0	-0	-0
為替換算調整勘定	-2	8	10
退職給付に係る調整累計額	24	25	1
非支配株主持分	52	53	1
負債純資産合計	2,288	2,220	-67

2 環境システム事業の業績

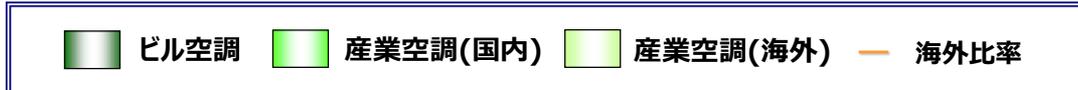
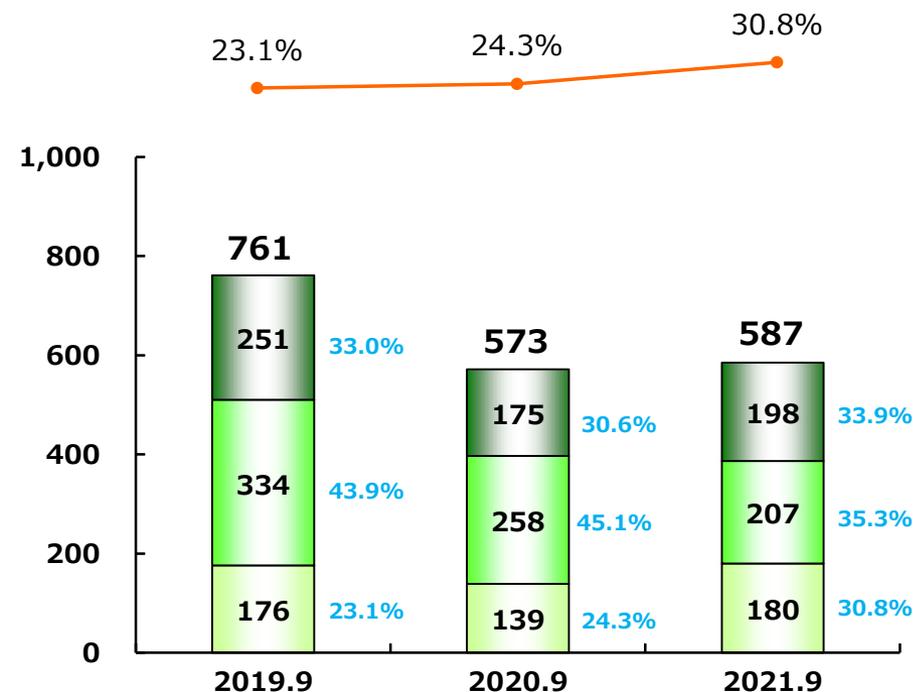
1. 受注工事高・完成工事高の推移

単位：億円

受注工事高



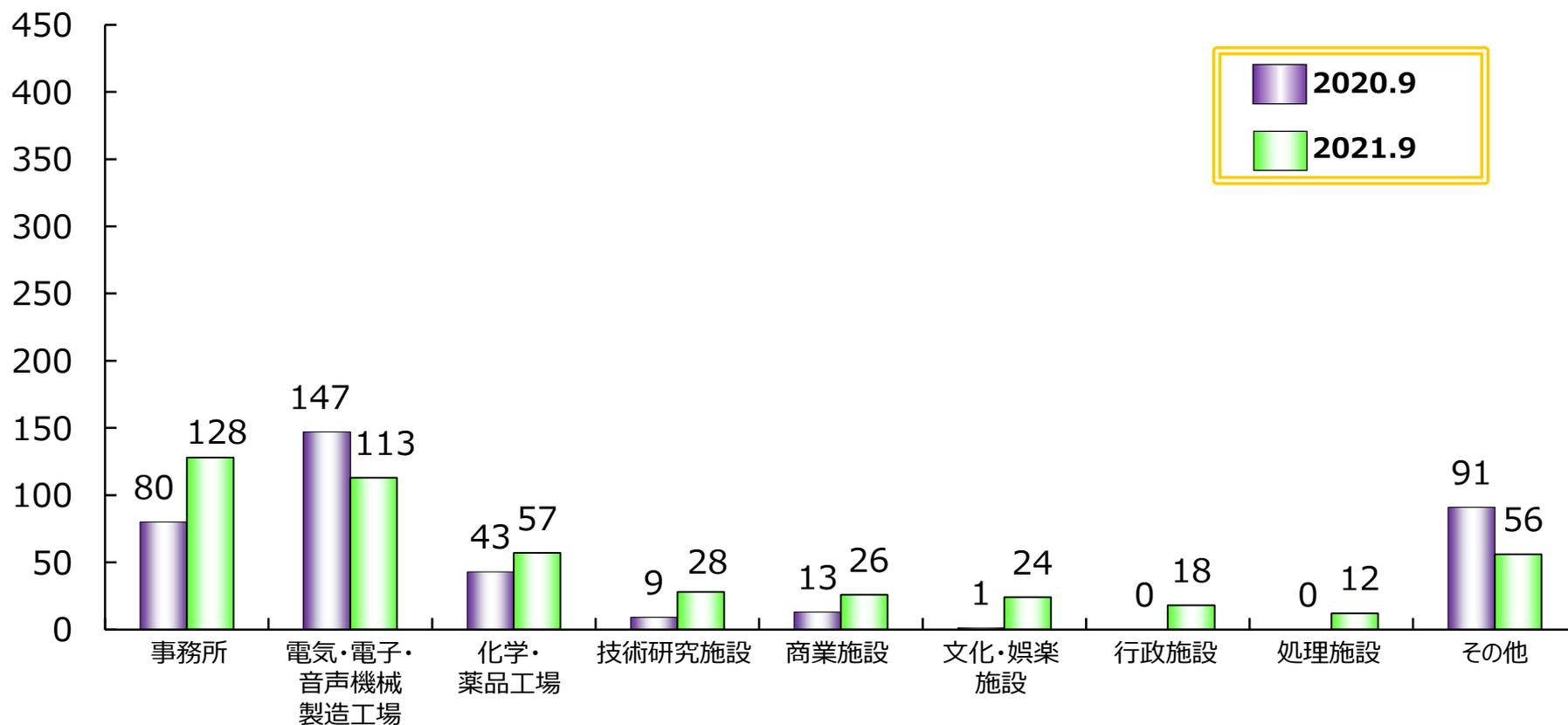
完成工事高



2 環境システム事業の業績

2. 市場種別受注状況(個別)

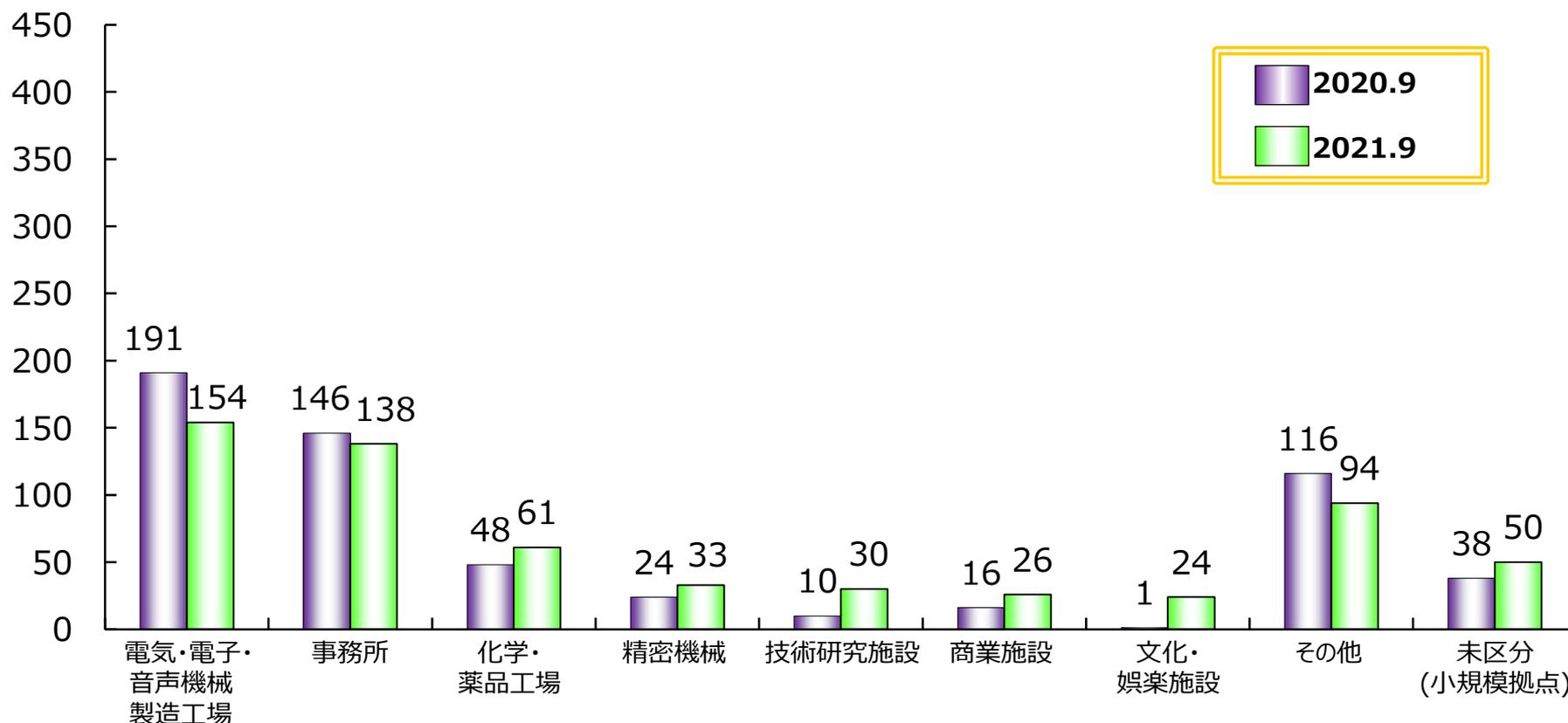
単位：億円



2 環境システム事業の業績

3. 市場種別受注状況(連結)

単位：億円



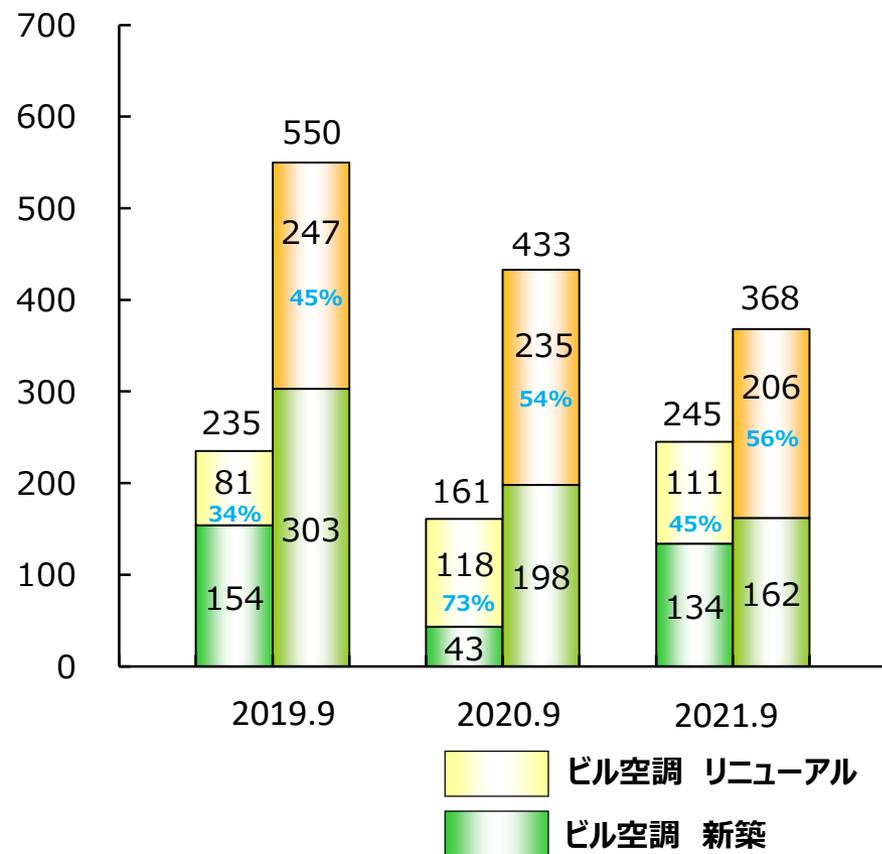
2 環境システム事業の業績

4. リニューアル工事の推移(連結)

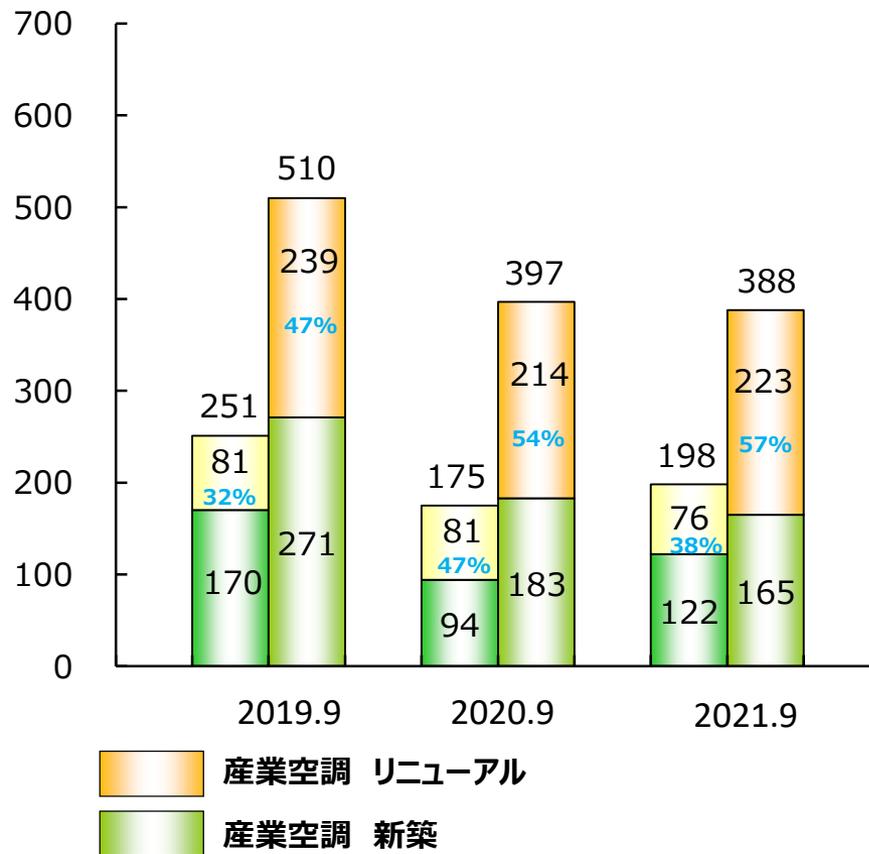
単位：億円

%：リニューアル比率

受注工事高



完成工事高



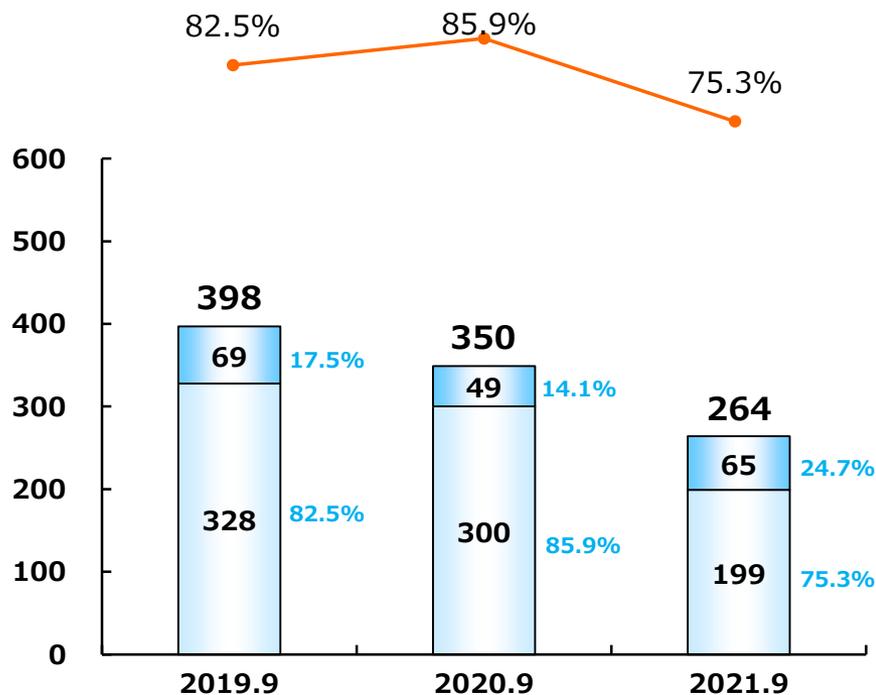
3

塗装システム事業の業績

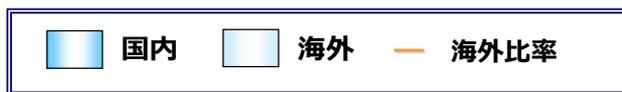
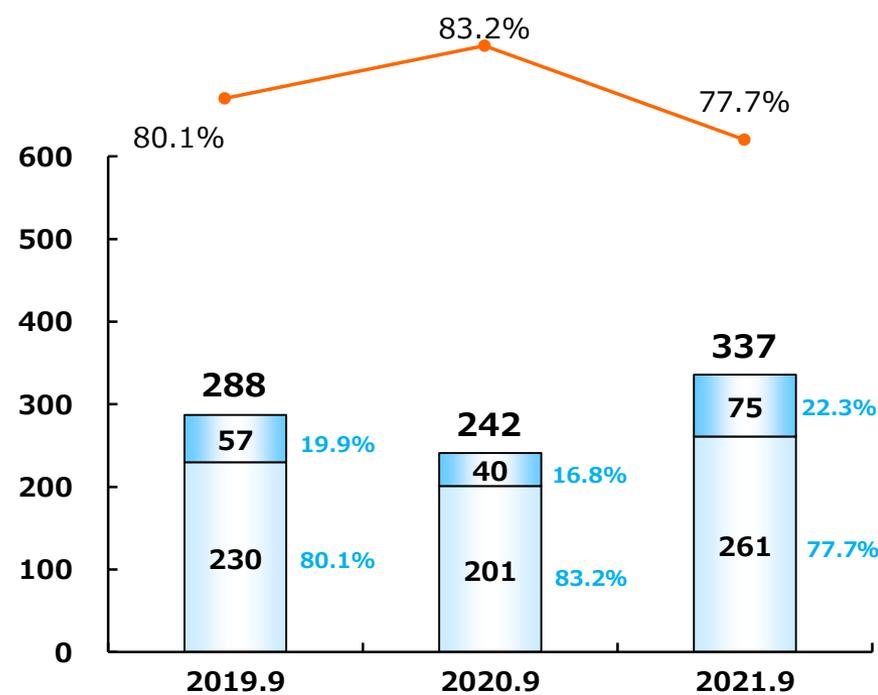
1. 受注工事高・完成工事高の推移

単位：億円

受注工事高

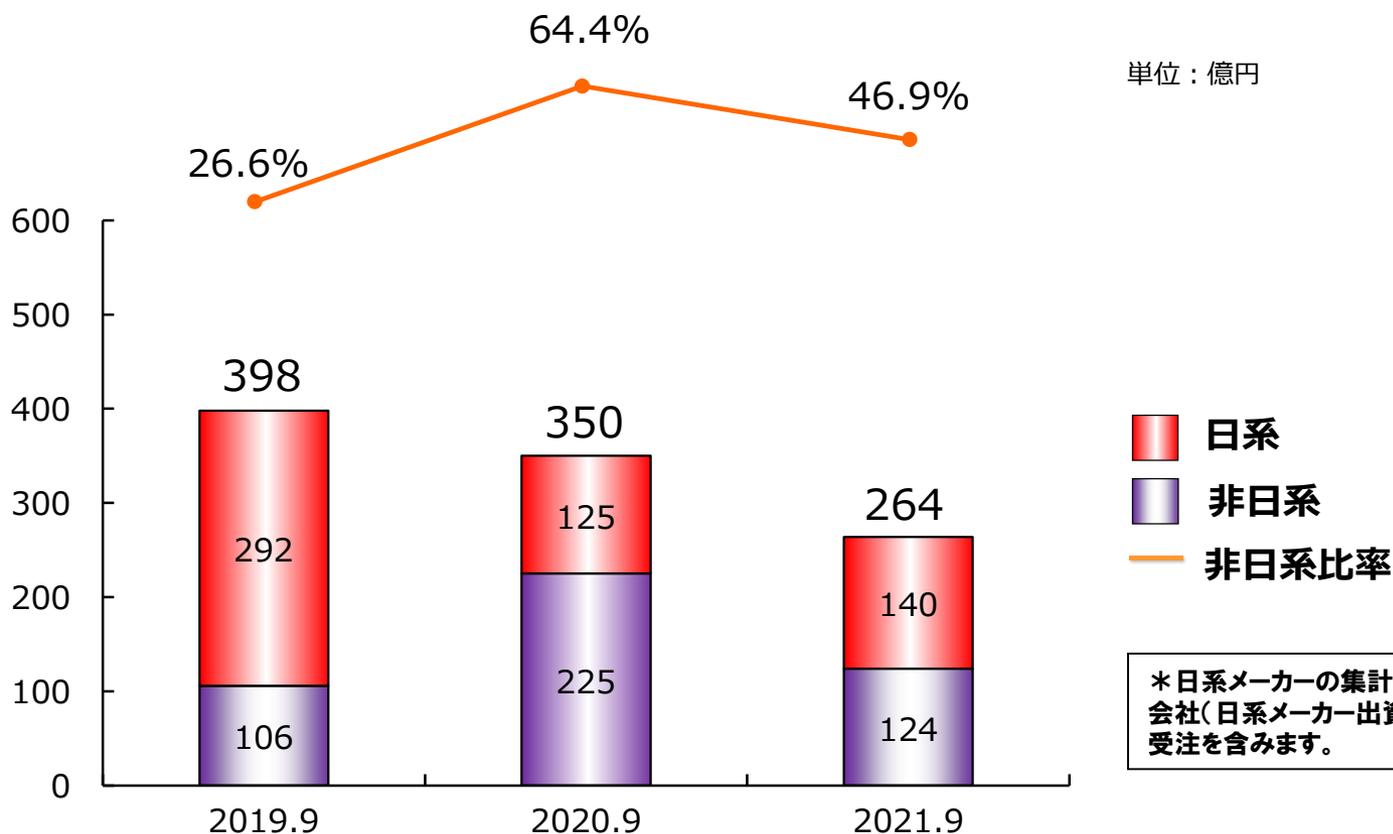


完成工事高



3 塗装システム事業の業績

2. 非日系メーカー受注工事高比率



4 主な受注工事・完成工事・繰越工事

1. 5億円以上の受注工事 全25件 (324億円)

5億円以上の件数 (工事・市場種別)				
受注工事高 合計25件 (324億円)	国内 201億円	16件	事務所	4件
			商業施設	2件
			文化・娯楽施設	1件
			行政施設	1件
			処理施設	1件
			技術研究施設	2件
			化学・薬品	2件
			精密機械・医療器具	1件
			自動車	2件
	海外 123億円	9件	精密機械・医療器具	2件
			電気・電子	1件
			自動車	6件

4 主な受注工事・完成工事・繰越工事

2. 5億円以上の**完成工事** 全30件 (330億円)

5億円以上の件数 (工事・市場種別)				
完成工事高 合計30件 (330億円)	国内 153億円	15件	事務所	6件
			宿泊施設	1件
			商業施設	1件
			医療・福祉施設	1件
			電気・電子	2件
			化学・薬品	2件
			技術研究施設	1件
			自動車部品	1件
	海外 177億円	15件	事務所	1件
			駅・空港施設	1件
			電気・電子	3件
			その他工場	1件
			自動車	7件
			二輪車	1件
			トラック	1件

4 主な受注工事・完成工事・繰越工事

3. 10億円以上の繰越工事 全36件 (797億円)

10億円以上の件数 (工事・市場種別)			繰越工事	内 2021年度 完成予定	
繰越工事高 合計36件 (797億円)	国内 470億円	23件	事務所	12件	
			行政施設	2件	
			文化・娯楽施設	1件	
			駅・空港施設	1件	
			技術研究施設	3件	
			化学・薬品	2件	
			食品・水産工場	1件	
			その他	1件	
	海外 327億円	13件	事務所	2件	
			電気・電子	1件	
			自動車	8件	1件
			トラック	1件	
			鉄道	1件	

5 2022年3月期業績予想

事業別予想値

単位：億円

	上期実績	下期予想	通期 新予想	通期 期初予想	差異
受注工事高	879	1,420	2,300	2,440	-140
（うち国内）	(546)	(928)	(1,475)	(1,318)	(157)
（うち海外）	(333)	(491)	(825)	(1,122)	(-297)
環境システム事業	614	955	1,570	1,710	-140
ビル空調	245	214	460	444	16
産業空調	368	741	1,110	1,266	-156
（うち国内）	(235)	(552)	(788)	(740)	(48)
（うち海外）	(133)	(188)	(322)	(526)	(-204)
塗装システム事業	264	465	730	730	0
（うち国内）	(65)	(161)	(227)	(134)	(93)
（うち海外）	(199)	(303)	(503)	(596)	(-93)

（環境システム事業）

- ・ビル空調分野は、上期に期初想定以上の受注を確保できたこともあり、通期としては期初予想を上回る見込み。
- ・産業空調分野は、国内では半導体関連のメーカーや製薬メーカーの投資意欲の高まりが期初想定以上になると見込まれ、期初予想を上回る見通しだが、海外での新型コロナウイルス感染症拡大の影響による設備投資計画の延期・縮小に伴い、期初予想を下回る見通し。

（塗装システム事業）

- ・海外の減少を国内がカバーし、期初予想通りとなる見込み。

5 2022年3月期業績予想

事業別予想値

単位：億円

	上期実績	下期予想	通期 新予想	通期 期初予想	差異
完成工事高	924	1,125	2,050	2,180	-130
（うち国内）	(481)	(591)	(1,073)	(1,063)	(10)
（うち海外）	(442)	(534)	(977)	(1,117)	(-140)
環境システム事業	587	732	1,320	1,420	-100
ビル空調	198	216	415	373	42
産業空調	388	516	905	1,047	-142
（うち国内）	(207)	(320)	(528)	(561)	(-33)
（うち海外）	(180)	(196)	(377)	(486)	(-109)
塗装システム事業	337	392	730	760	-30
（うち国内）	(75)	(54)	(130)	(129)	(1)
（うち海外）	(261)	(338)	(600)	(631)	(-31)

（環境システム事業）

- ・ビル空調分野は、首都圏の大規模再開発案件を中心に当初の想定以上に出来高が上がり、期初予想を上回る見通し。
- ・産業空調分野は、国内で受注工事高は増えるものの、大型物件が多く、当期の完成工事高への寄与が少ないため期初予想を下回る見通し。海外でも、期初には新型コロナウイルス感染症の収束を見込み、当期受注当期完工の案件を織り込んでいたが、感染症の影響は依然残り、期初予想を下回る見込み。

（塗装システム事業）

- ・海外において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による受注時期の遅れに伴う完成工事高減少により、期初予想を下回る見込み。

5

2022年3月期業績予想

事業別予想値

単位：億円

	上期実績	下期予想	通期 新予想	通期 期初予想	差異
営業利益	27	62	90	127	-37
(同率)	3.0%	5.5%	4.4%	5.8%	-1.4%
環境システム事業	30	58	89	106	-17
(同率)	5.3%	7.9%	6.7%	7.5%	-0.7%
塗装システム事業	-5	9	4	27	-23
(同率)	-1.6%	2.4%	0.5%	3.6%	-3.0%
経常利益	35	64	100	135	-35
(同率)	3.9%	5.7%	4.9%	6.2%	-1.3%
環境システム事業	33	56	90	108	-18
(同率)	5.7%	7.7%	6.8%	7.6%	-0.8%
塗装システム事業	-4	10	6	27	-21
(同率)	-1.2%	2.6%	0.8%	3.6%	-2.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	16	43	60	84	-24
(同率)	1.8%	3.8%	2.9%	3.9%	-0.9%

(環境システム事業)

- ・国内では上期竣工物件において、期初想定した以上の利益改善が進み、上期期初予想を上振れたものの、下期は上期への利益前倒し分に加え、下期の高い目標設定の水準を超える利益改善が進まなかった。
- ・海外では新型コロナウイルス感染症拡大の影響による受注工事高減少に伴う完成工事高不足や工事進捗の遅れ、さらには材料費高騰などの影響を受け、通期では期初予想を下回る見通し。

(塗装システム事業)

- ・上期におけるGeico社の採算性悪化の影響に加え、下期はGeico社および、北米、インドの子会社において、前ページに記載の要因による完工高減や、材料費高騰などによる利益率悪化の影響を受け、通期では期初予想を下回る見通し。

5

2022年3月期業績予想

事業別予想値

単位：億円

	2021.3									2022.3								
	環境システム			塗装システム			全社			環境システム			塗装システム			全社		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期(E)	通期(E)	上期	下期(E)	通期(E)	上期	下期(E)	通期(E)
受注工事高	594	760	1,355	350	299	649	945	1,059	2,004	614	955	1,570	264	465	730	879	1,420	2,300
完成工事高	573	767	1,340	242	442	684	815	1,209	2,025	587	732	1,320	337	392	729	924	1,125	2,050
営業利益	42	68	111	-10	20	9	31	84	116	30	58	89	-5	9	4	27	62	90
経常利益	44	67	111	-10	19	9	37	85	122	33	56	90	-4	10	6	35	64	100
親会社株主に帰属する当期純利益	-	-	-	-	-	-	30	52	82	-	-	-	-	-	-	16	43	60

- ① 2021年3月期上期決算為替レート：1USDドル=108.44円、1ユーロ=119.85円、1タイバーツ=3.44円
- ② 2022年3月期上期決算為替レート：1USDドル=107.76円、1ユーロ=129.97円、1タイバーツ=3.49円
- ③ 2022年3月期想定為替レート：1USDドル=103.00円、1ユーロ=121.00円、1タイバーツ=3.30円

- ①と②の為替差による影響 完成工事高：+14.7億円、経常利益：△0.8億円
- ②と③の為替差による影響 完成工事高：+25.4億円、経常利益：△0.2億円

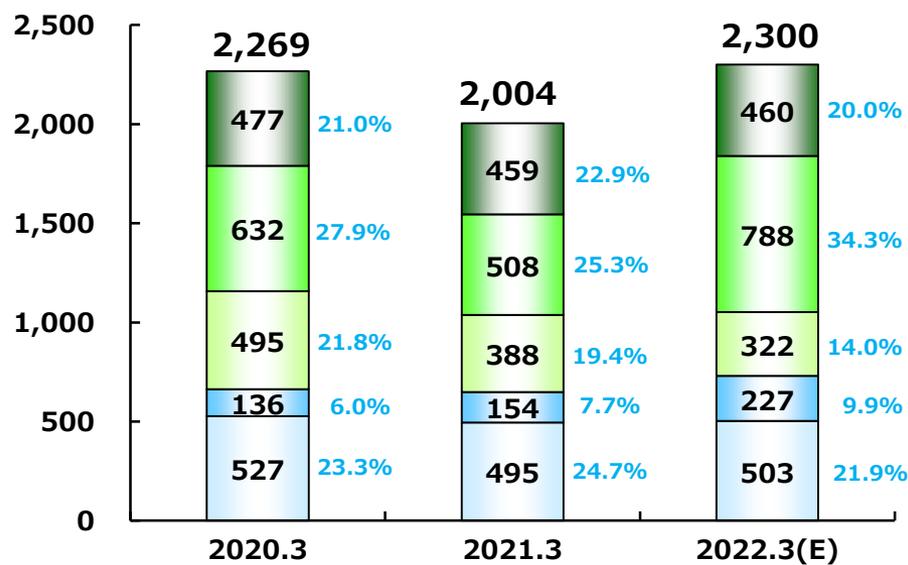
※2022年3月期業績予想において、全為替レートが1%変動した場合の影響額
 ⇒受注・完工：約10億円、経常利益：約0.1億円

5 2022年3月期業績予想

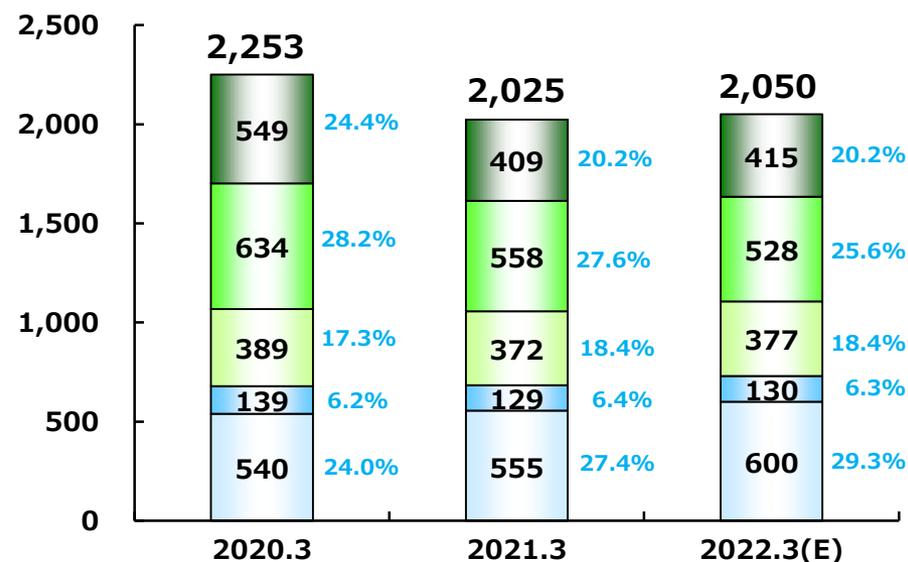
事業別予想値

単位：億円

受注工事高



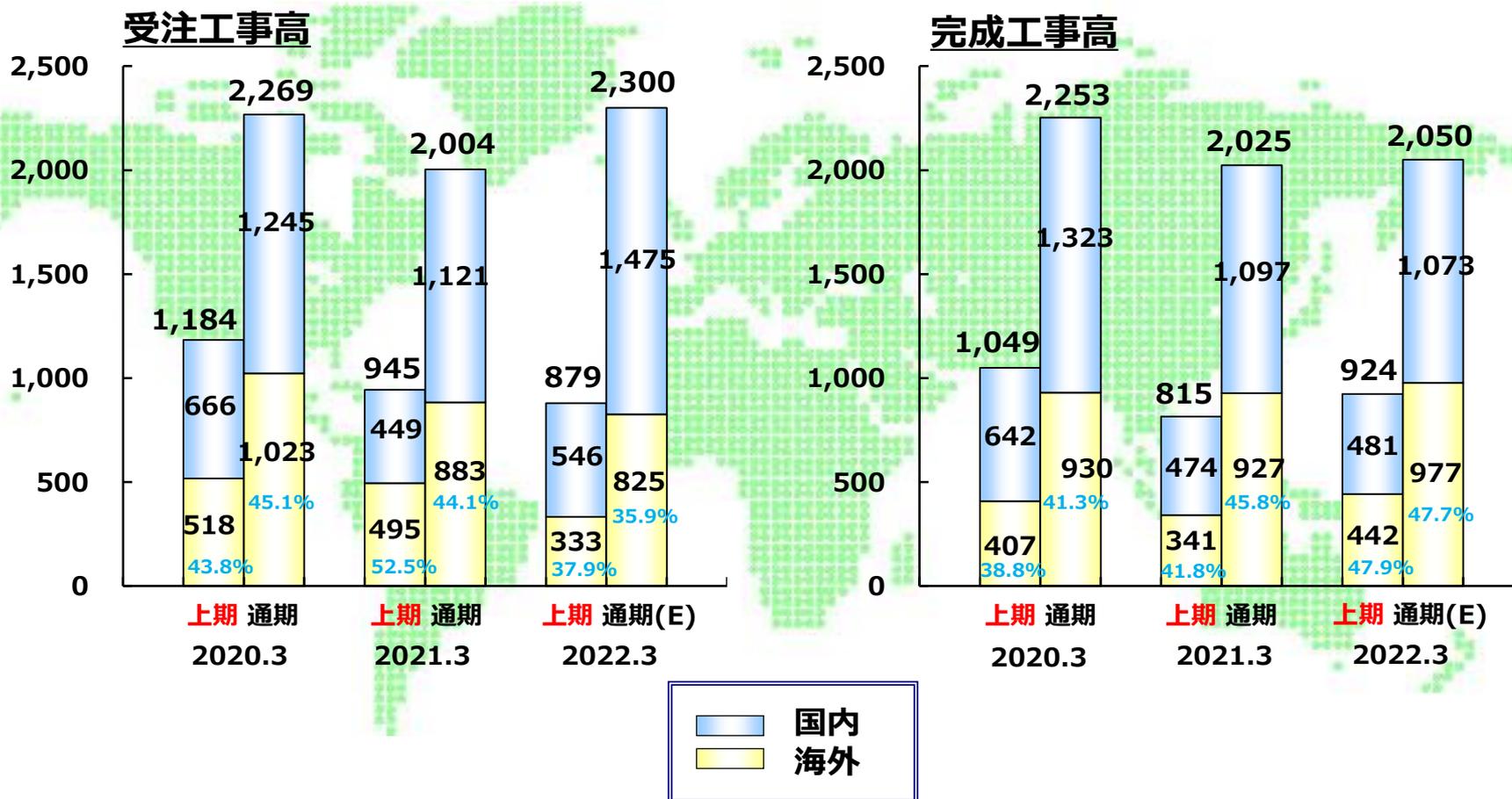
完成工事高



5 2022年3月期業績予想

全社（国内／海外別）

(単位:億円)
(%:海外比率)

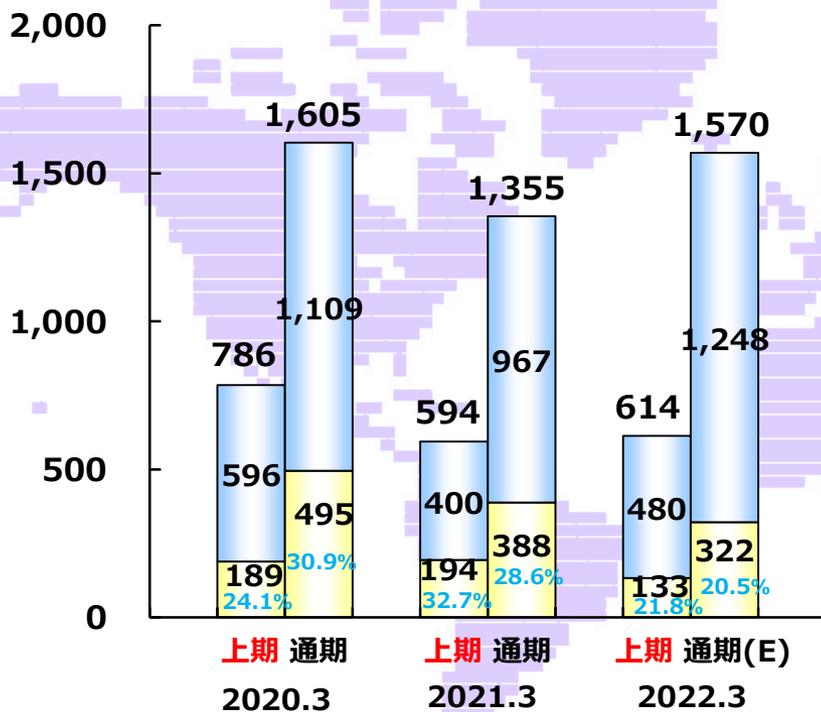


5 2022年3月期業績予想

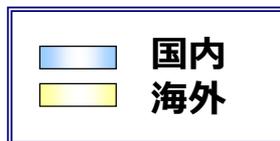
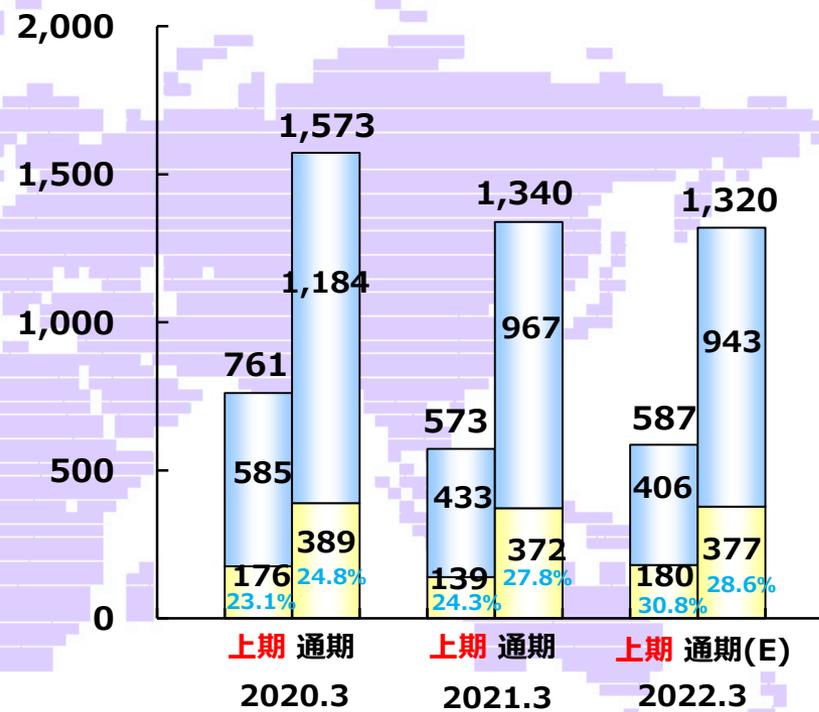
環境システム事業（国内／海外別）

(単位:億円)
(%:海外比率)

受注工事高



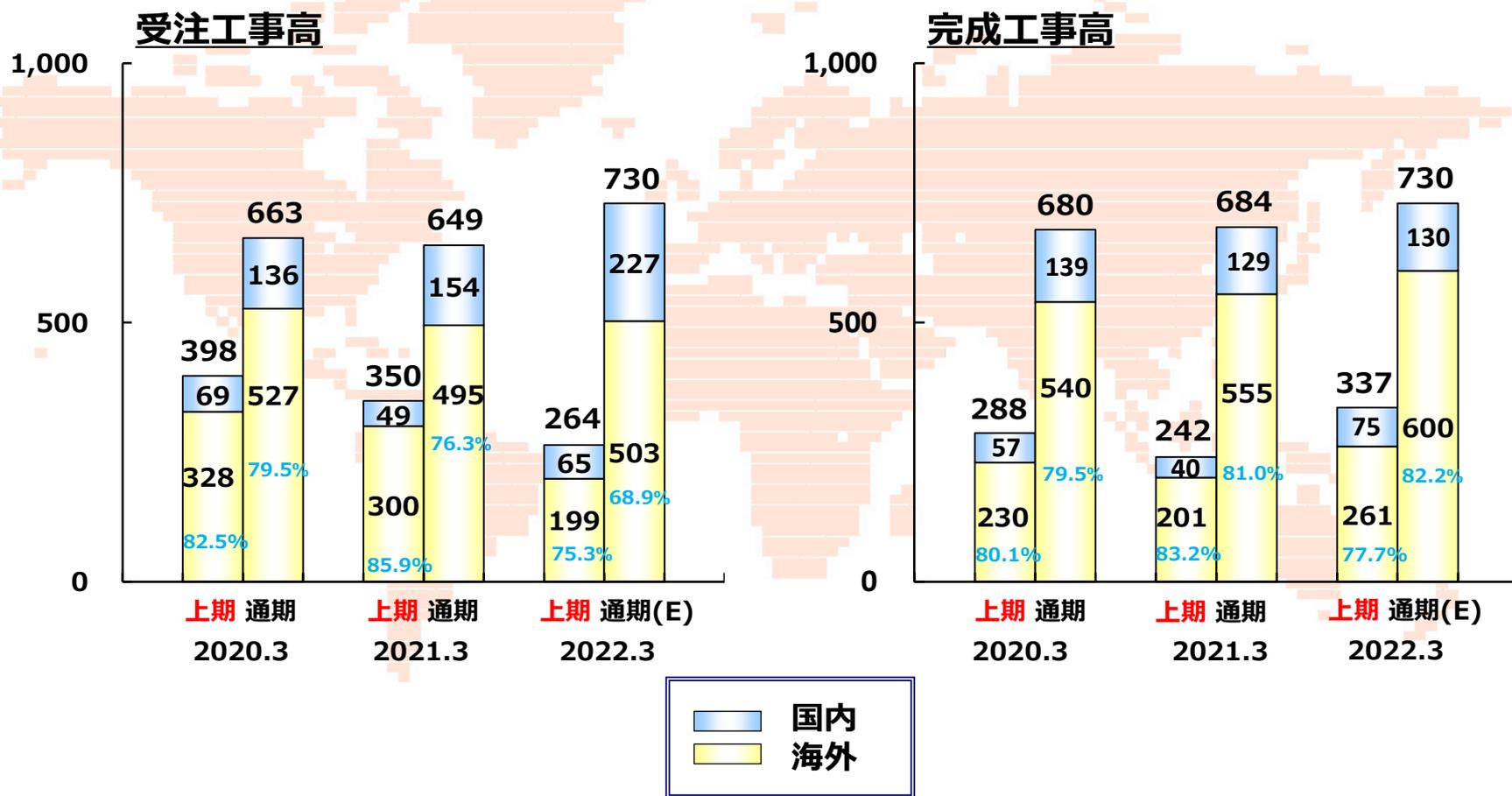
完成工事高



5 2022年3月期業績予想

塗装システム事業（国内／海外別）

(単位:億円)
(%:海外比率)



2. 中期経営計画（2019年度～21年度）の 各戦略における取り組み

長期ビジョン／数値目標／投資テーマ

「特色あるエンジニアリングを通じ、
最適な環境を創造するグローバルな企業グループを目指す」

技術

エネルギー・空気・水に関わる技術で、
お客様の多様なニーズを満たすエンジニアリング集団を目指す。

環境

先進的なソリューション技術でお客様の環境課題を解決し、
豊かな地球環境を未来へ引き継ぐことに貢献する。

人材

個人の創造性・多様性を尊重し、社員が自己の成長と働く喜びを感じることができる
風土を大切にする。

2022年3月期 数値目標

受注工事高	2,650 億円
完成工事高	2,600 億円
経常利益	160 億円
親会社株主に帰属する当期純利益	100 億円
自己資本利益率 (ROE)	8%以上
投資計画	200 億円

投資テーマ

技術開発力・提案力の強化／新規事業への取り組み推進
(研究開発施設の拡充など)

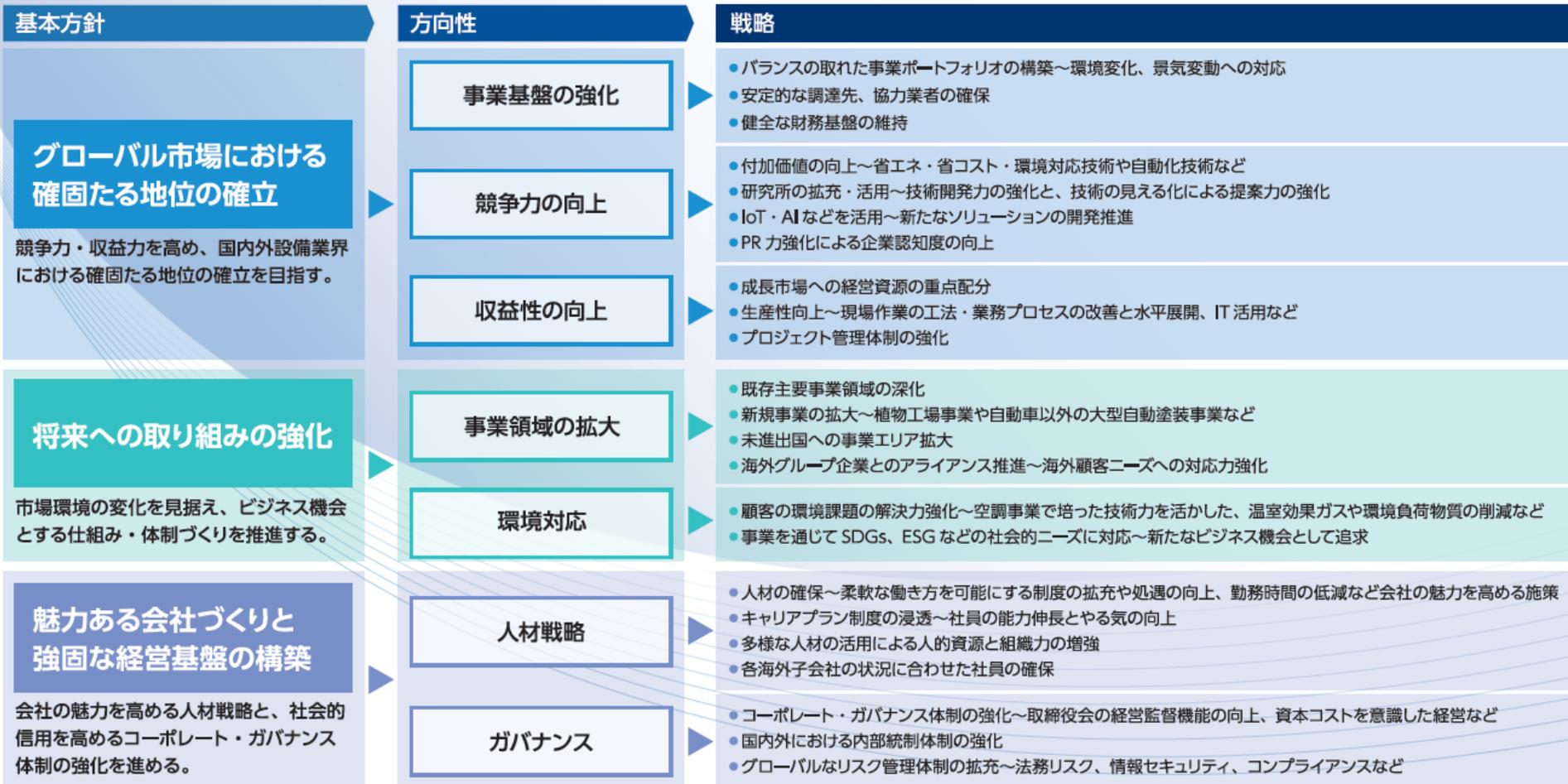
生産性の向上(ITの活用など)・人材開発

M&Aなど資本投資

投資金額 (計画)

200億円

基本方針と方向性・戦略



各戦略における取り組み ～今期の実績①～

戦略：新規事業の拡大～植物工場事業や自動車以外の大型自動塗装事業など

自社植物量産工場からリーフレタスを出荷

株式会社ベジ・ファクトリーが所有する量産実証工場（埼玉・杉戸町）において、完全人工光型の植物工場の運営ノウハウの改善を続けています。

産業空調分野で培った空調技術と塗装分野の自動化技術を融合した「自動搬送による完全無人生育システム」と、「独自の水耕栽培システム」により、高品質かつ生菌数の少ないロングライフ野菜の量産を実現。

9月1日より、フリルレタスとグリーンリーフの出荷を開始しました。



各戦略における取り組み ～今期の実績②～

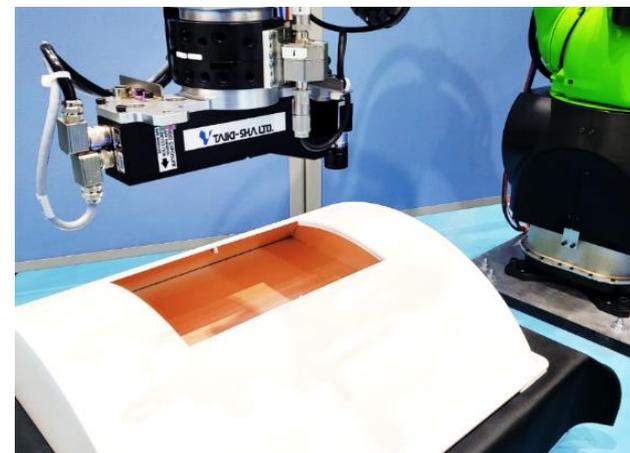
戦略：付加価値の向上～省エネ・省コスト・環境対応技術や自動化技術など

産業用ロボットへのプログラミングを自動で行うシステム「i-ART」を開発

当社が長年携わってきた自動車製造工場の塗装・研磨工程では、労務コストの削減や品質安定化の観点から、産業用ロボットを使った作業の自動化が一般化しています。しかしながら、自動車以外の製造現場においては、ロボットにプログラミングを施すこと（ティーチング）のできる専門技術者を配置することが難しい、作業数が多岐にわたりティーチングに膨大な時間を要する等の理由から、自動化を断念される場合があるのが現状です。

こうした中、当社はこれまで培った塗装ロボットのティーチング技術・ノウハウを生かし、自動かつ短時間で、誰でも簡単に作業を行うことのできる支援ツール「i-ART」を開発しました。

「i-ART」は、被処理物の位置や形状を3Dスキャンすることで、塗装・研磨工程に必要なロボットの動きをアルゴリズム化し、生産ラインを止めることなく作業することが可能です。これにより専門技術者の労働負荷の低減や、有機溶剤等、人体に悪影響となる環境下での作業を自動化することができます。



各戦略における取り組み ～今期の実績③～

戦略

コーポレートガバナンス 体制の強化

～取締役会の経営監督機能の向上、資本コストを意識した経営など

今期の実績

取締役会のさらなる充実

本年6月、取締役会の構成を見直し、取締役9名のうち4名が社外取締役となった。取締役会全体としての知識・経験・能力のバランス、多様性や専門性確保の観点から、新たに社外取締役が2名加わり、取締役会機能のさらなる充実を図った。

委員会機能の整備

- ①取締役会の独立性・客観性と説明責任の強化を目的に設置している指名諮問委員会・報酬諮問委員会について、サクセッションプランの導入等さらなる機能強化を実施した。
- ②グループ全体のガバナンス体制の向上を目的に、取締役会の諮問機関として新たにガバナンス委員会を設置した。
- ③上記①②は、いずれも社外取締役が委員長を務める。

各戦略における取り組み ～今期の実績④～

戦略

人材の確保

～柔軟な働き方を可能にする制度の拡充や処遇の向上、勤務時間の低減など会社の魅力を高める施策

今期の実績

健康経営のより一層の推進

昨年度に取得した「健康経営優良法人2021(ホワイト500)」の認定をより一層深化させるため、4つの重点施策(①生活習慣の改善、②メンタルヘルス向上、③長時間労働対策、④ワークライフバランス支援)を掲げ、産業医、保健師の増員、国内各地に配置した衛生委員会を通じた社員とその家族の健康課題へのより積極的な取り組み、健康セミナーのオンライン開催、ウェアラブル端末の活用促進、生活習慣病へのリテラシー向上などを推進している。

会社の魅力を高めるための新・福利厚生制度（カフェテリアプラン・パッケージプラン）の導入

旧来の制度を刷新し、現在の社員の価値観やライフスタイルに合わせ、多様なニーズに応えることができ、より多くの社員がいつでも利用可能な福利厚生制度として、カフェテリアプラン・パッケージプランを導入した。

各戦略における取り組み ～進行中の主な取り組み①～

戦略	進行中の主な取り組み
<p>付加価値の向上 ～省エネ・省コスト・ 環境対応技術や自動化技術など</p>	<p>高塗着効率塗装システムの開発・商品化</p> <p>CO₂削減につながる、高塗着効率塗装システムの開発・商品化を推進中。</p>
<p>研究所の拡充・活用 ～技術開発力の強化と技術の見える化による提案力の強化</p>	<p>技術開発センター（愛川）の実証センター化</p> <p>環境システム事業関連技術の顧客への提案を行う見学施設として再構築を検討中。</p>
<p>IoT・AIなどを活用 ～新たなソリューションの開発推進</p>	<p>予兆保全と品質解析システムの開発・事業化</p> <p>IoT・AI を活用して稼働停止や品質不良発生時の要因解析を行うシステム「i-Navistar」の導入拡大に向け営業活動推進中。</p>

各戦略における取り組み ～進行中の主な取り組み②～

戦略	進行中の主な取り組み
<p>生産性向上</p>	<p>各種業務の効率化・自動化</p> <p>図面の自動作画や原価管理のシステムの開発、3D図面およびBIM化の促進、積算・プロジェクト管理等の自動化。</p> <p>経費精算システムの導入</p> <p>経費精算システムの導入を検討中。システム導入によりペーパーレス化および業務プロセスの効率化を実現。</p>
<p>新規事業の拡大 ～植物工場事業や自動車以外の大型自動塗装事業など</p>	<p>航空機・鉄道車両、一般産業向け自動研磨装置及び100%塗着効率塗装ガンの開発・事業化</p> <p>受注拡大に向け営業活動推進中。</p>
<p>未進出国への事業エリア拡大</p>	<p>未進出国への拠点設立の検討</p> <p>今後の投資が期待できる地域への新規拠点設立を検討中。</p>

各戦略における取り組み ～進行中の主な取り組み③～

戦略

**多様な人材の活用による
人的資源と組織力の増強**

進行中の主な取り組み

多様な人材の採用と活用

IT知識や海外経験など多様なバックグラウンドを持つ新卒人材の採用を、性別や国籍を問わず質・数ともに高い水準にて継続する。あわせて、多様な事業ニーズに応えるため、多彩な即戦力人材を中途採用市場から積極的に獲得し活用する。

女性活躍に向けた一連の施策は完了したが、今後さらに一段と踏み込んだ女性活躍を推進するため、処遇・福利制度の充実を図るとともに、出産・育児期のキャリア形成の停滞を低減するための施策を検討し順次実施していく。

当社の社会的価値向上のための人材能力の向上

若手社員の早期育成を図るとともに、上位職者の経営能力の向上と高付加価値事業・市場領域開拓に資する高度専門人材の育成と活用に向けた諸施策を導入し推進する。

各戦略における取り組み ～進行中の主な取り組み④～

戦略	進行中の主な取り組み
<p>コーポレート・ガバナンス体制の強化 ～取締役会の経営監督機能の向上、資本コストを意識した経営など</p>	<p>資本コストや資本・配当政策に関する検討の深化</p> <p>企業価値向上を目指し、資本コストを意識した経営や資本・配当政策に関する検討を推進中。</p>
<p>国内外における内部統制体制の強化</p>	<p>内部統制体制の強化</p> <p>グループ全体のITを健全に維持・監督する内部統制体制の強化に向けた対応を検討中。</p>
<p>グローバルなリスク管理体制の拡充 ～法務リスク、情報セキュリティ、コンプライアンスなど</p>	<p>グローバルな情報セキュリティ対策の強化</p> <p>関係会社における情報セキュリティ対策の強化を検討中。</p>

3. 株主還元

1 株主還元

自己株式の取得・消却

取得実績

実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)
2005年12月	40	1,933	77
2006年 2月	597	1,780	1,062
2006年7,8月	500	1,401	700
2011年 8月	300	1,576	472
2012年11月	600	1,614	968
2013年12月	800	2,170	1,736
2015年 5月	680	3,245	2,206
2016年11月	356	2,805	999
2017年11,12月	136	3,654	499

消却実績

実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)
2008年 8月	1,200	1,593	1,912
2018年 2月	1,700	2,443	4,154

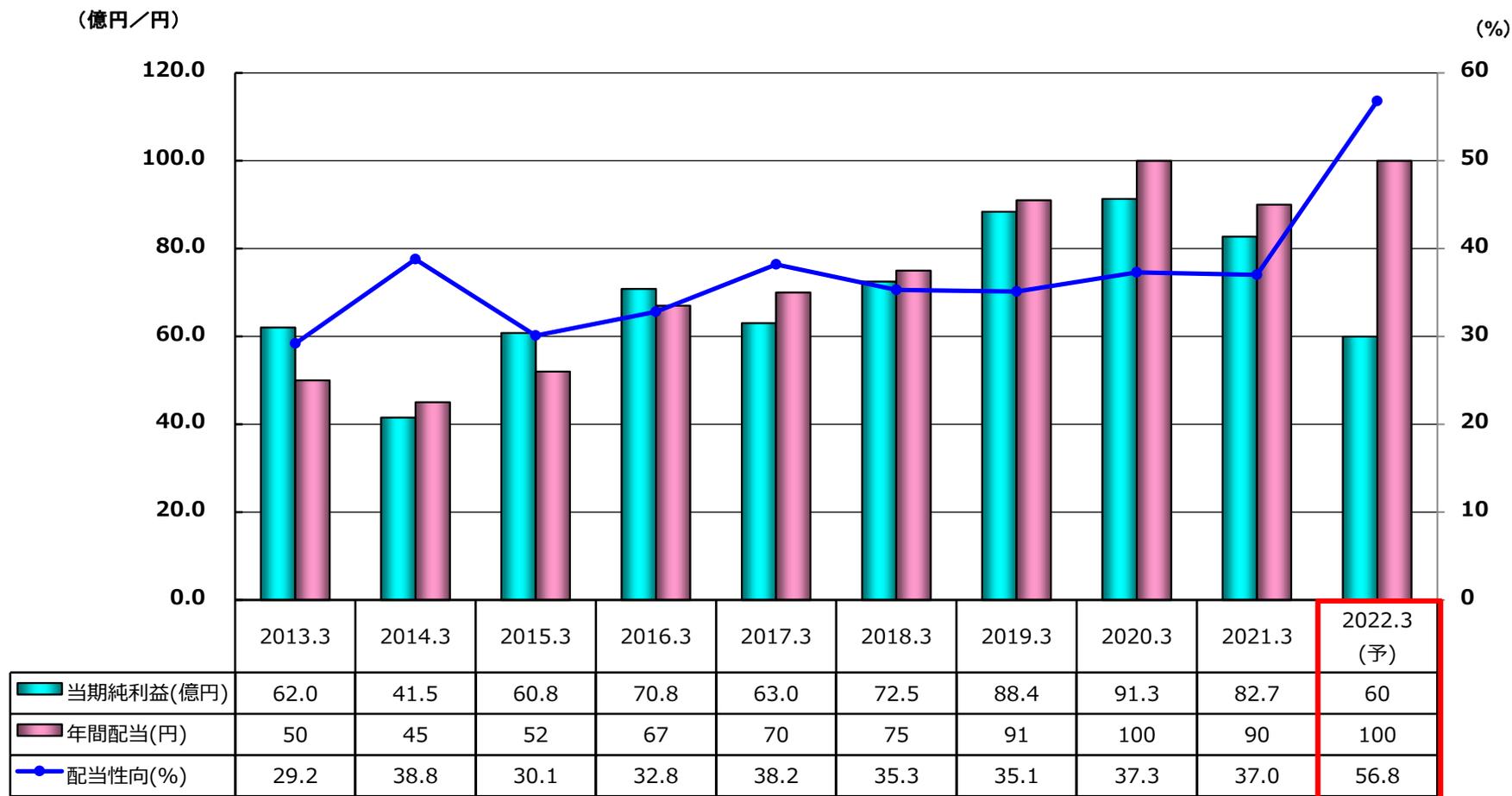
処分実績 (ESOP・業績連動型株式報酬制度にて)

実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)
2013年 2月	180	1,860	334
2019年 8月	136	3,299	449

1

株主還元

当期純利益と配当の推移



連結配当性向40%を目標とし、安定的な配当を実施していくことを基本方針とする。
 2022年3月期の1株当たり年間配当予想金額は100円。(配当性向56.8%)

将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行っていただきますようお願いいたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関するお問合せ先

株式会社大気社 経営企画本部 経営企画部 広報課

TEL : 03-5338-5052 FAX : 03-5338-5195